



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1998年10月1日発行 第17号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

大いなる歓迎と最高の待遇

ロンダ市ペドロ・ロメロ祭公式招待訪問団



▲春田画伯追悼式。記念の石塔の前で。

去る8月30日（日）から9月6日（日）までの8日間、ロンダ市年間最大のイベント、ペドロ・ロメロ祭にロンダ市より公式招待を受けた当協会訪問団6名（下山会長夫妻、朝倉事務局長夫妻、中村常務理事、宮崎理事）は祭の期間中、最高の暖かい歓迎と待遇を受け、連日多忙の中、市民との交流の役目も果たし、無事その訪問の使命を終えた。

ロンダ市は現在、社会労働党が政権を握っており、9年間続いている。現地の新聞によると、訪問団受け入れのために歓迎委員会が超党派で組織され、その主たるメンバーは次のような人々であった。すなわち、ホアン・フライレ市長、フェリア最高責任者のラサンタ文化担当助役、ホアン・ベニーテス副市長、ハイメ・コロネル国民党代表、アントニア・マリン・アンダルシア主義政党代表、アグスティン・ルビーラ左翼連合代表の議員団と、カルロス・ルイス町内会長、ホセ・ソリス中小企業連合会会長の面々である。

以下訪問団の行動を日時を追って紹介する。なお、レポートはこの訪問団に参加した中村常務理事である。

8月30日（日）

訪問団ロンダ着。

夜10時より闘牛場にて、ロンダ市が毎年主催している国際民族舞踏フェスティバルに参加した各国舞踏団の民族舞踏を見学。闘牛場のグラウンドに舞台と見学席が作られた満席の中、最前列中央の席を提供され、フェリア最高責任者ラサント氏が下山会長に付き添い、司会者によってオープニング挨拶に横浜からゲストを迎えていることが紹介された。

フェスティバルは第25回記念を迎え、ロンダの民族舞踏団「アブル・ベカ」を育て、フェスティバル開催に貢献したロンダの著名な舞踏家アデーラさんが讃えられ、イタリア、中国、パナマ、ガーナ等の舞踏が演じられた。

8月31日（月）



▲ロンダ市へ協会旗を贈呈

し、出席者の感動を呼んだ。当協会が今回はじめて作った美しいデザインの協会旗とバッジを贈り、歓迎の様子はエル・スール紙、ロンダ・セマナール紙、ロンダ紙の各新聞に掲載され、ラジオロンダ、ロンダテレビの取材もあった。

午後8時よりパレード見学と、点灯式に参加。

フェリアの期間中、郊外にフェリア会場が仮設され、市当局、各政党、企業等のカセータが20軒ほど作られ、その中で、市民が飲み食べ踊り、さまざまなイベントが行われる。

フェリア会場への入り口となる大通りには、大きなアーチが建てられ、そこから会場まで多くの美しいイルミネーションの飾りをくぐり抜けてたどり着くようになっていた。

実際のペドロ・ロメロ祭の幕開けを告げるパレードが夜8時にブラスインファンテ公園（協会が桜植樹をし、5年前に記念の石塔を建立した場所）から、フェリア会場アーチに向かって出発した。パレードはロンダの楽隊、国際民族音楽舞踏フェスティバルに参加した各国の舞踏団、フラメンコ衣装で着飾った子どもたちの山車、ゴジェスカ（ゴヤ時代風の）衣装のお嬢さん、貴婦人の山車等で成り立っていた。

パレードの最も目立つ場所はビルヘン・デ・ラス通りからエスピネル通りに曲がる角であり、パレードはその角でかなり長く止まりパフォーマンスを見せる。その最高の場所にある角のレストランの2階バルコニーをロンダ市が確保して訪問団をそこで見学させてくれた。着物姿の下山会長夫人とハッピーと祭のうちわでバ

午後1時、市役所表敬訪問。市議会場でロンダ市に公式に迎えられた。

フェリア期間中の公式行事参加の立派なプログラムが作成されており、各参加者に手渡された。ラサント文化担当助役の司会により、ホアン・ベニーテス副市長が市長代理として挨拶を述べ、続いて左翼連合代表アンダルシア主義政党代表、国民党代表、町内会長、中小企業連合会長からの挨拶があった。

下山会長は招待へのお礼の挨拶の中に、今回の招待へのきっかけとなった故春田美樹画伯の手紙の中から、ロンダ市に桜を植樹する夢への熱い思いを語った言葉を引用

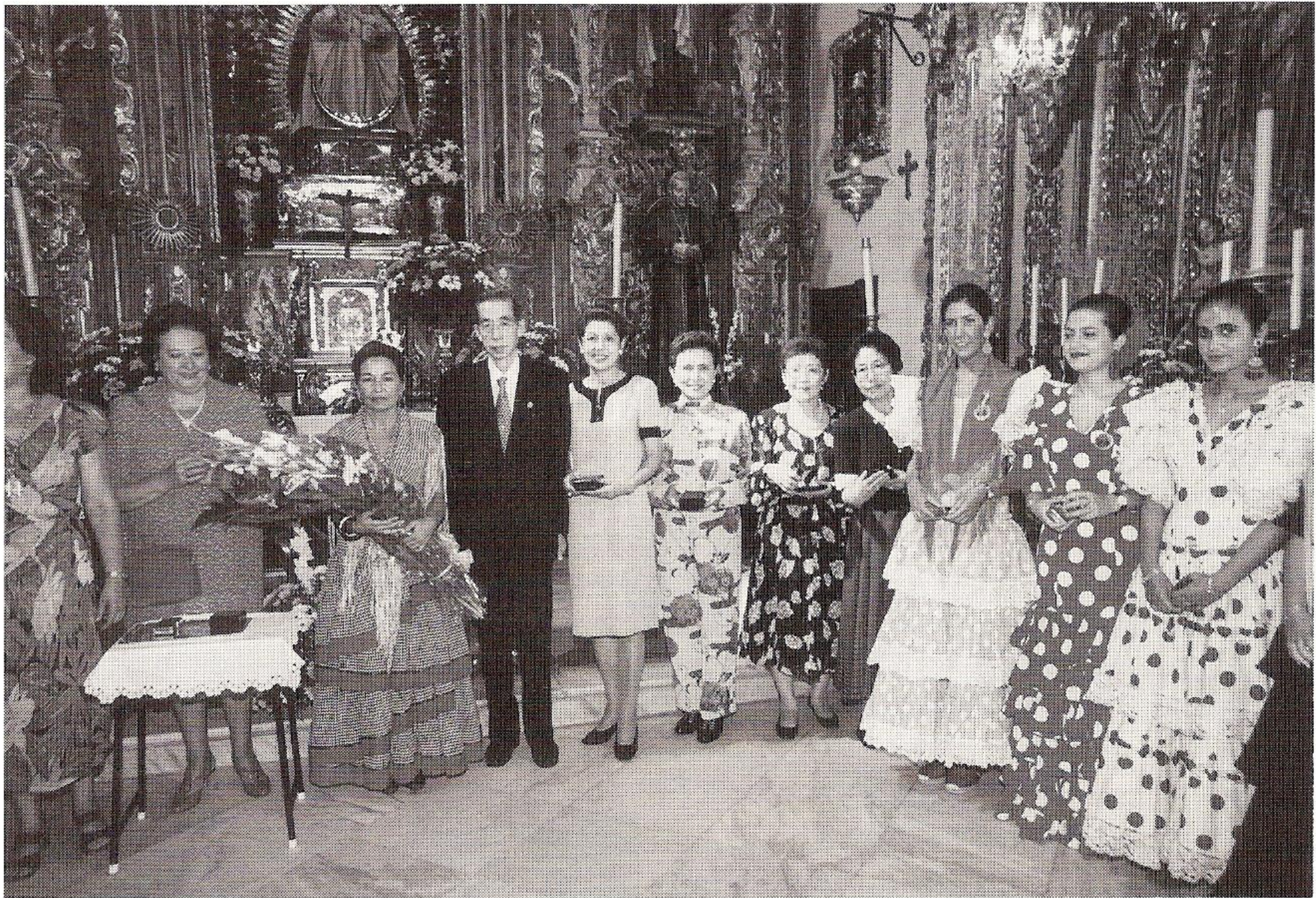


▲会長夫妻が点灯したフェリア会場入口のイルミネーションのアーチ

ルコニーに並んだ訪問団の姿は目立ち、各パレードのパフォーマーが手を振って挨拶をしてくれ、バルコニー観覧の姿はロンダ・セマーナル紙のパレード記事を飾った。

パレードの終点はフェリア会場の入り口の大きなアーチである。ペドロ・ロメロ祭開幕のハイライトでそのアーチの点灯式にロンダ市長と下山会長夫妻が並び、会長夫妻に点灯の栄誉が与えられた。夫妻がスイッチを入れると、華やかにアーチが輝き、フェリアの開幕火蓋が切られた。

9月1日（火）



▲ビルヘン・デ・ラ・パス教会で聖母への献花とメダル授与式に参加

ロンダ市の守護聖母で永久女性市長の名を持つビルヘン・デ・ラ・パス（平和の聖母）の教会で聖母への献花とメダル授与式に参加。

ゴジェスカ嬢と貴婦人（フェリア期間中のイベントの花であり、ミスロンダにあたる女性10人とそれを統括する貴婦人1人）による守護聖母への献花のイベントは、フェリアイベントに中でも最も精神的、感動的意味を持つものであるようだ。献花は聖母様がお立ちになっている聖壇奥の階段を上り、御前に直接ゴジェスカ嬢によって捧げられた。信徒以外は入れない厳しい所とされているが、非信徒の訪問団は聖母の前まで登るのを許され、直接聖母像に触れた。

その後、同聖堂で信徒会幹部によりフェリアの期間中のゴジェスカ嬢の功勞に対し、聖母戴冠50周年の記念メダル授与式が執り行われた。下山会長以下訪問団全員にも贈られる栄譽を得た。

訪問団は関係者全員に協会のバッジを贈り、信徒会会長アントニオ・ケレーロ氏に教会修道院付属の学校生徒に折り紙人形を100体以上滞在期間中に作ってプレゼントすることを約束して大変喜ばれた。

帰り際、同会長より将来学校でジャパンウィークを開催して、日本を紹介するイベントに協力の依頼があり快く引き受けた。

9月2日（水）

ロンダ市関係者を協会主催の昼食会に招待。

2カ月前オープンしたばかりの新しいレストランへ、関係者10名を招待した。会場には協会の旗を飾り、

入り口のテーブルに訪問団女性が作った和紙の人形、折り紙、工芸作品を並べて歓迎し、3時間にわたる和やかな会となった。招待客の中には、副市長、ラサンタ助役、年間最大の闘牛、ゴジェスカ闘牛の審判長になるアンダルシア主義政党代表、平和の聖母信徒会会長、国民党代表、左翼連合代表等が含まれていた。

夜10時よりフェリア会場の市主催のカセータに招待され、スペイン歌謡歌手パシオン・ペガのリサイタルを見学した。

9月3日(木)

12時よりパラドールに隣接したブラスインファンテ公園にて、春田美樹画伯追悼式に参加。

協会は5年前、ロンダ市に約20年住んだたった1人の日本人であった春田美樹画伯の、ロンダに日本の桜を両国の交流の架け橋として植えたいという夢を実現させて植樹をし、記念の石塔を建立した。しかし、間もなくその石塔は土台だけ残されて、上の部分がいたずらか何かで壊されたままになっていた。

それも今回元通りに復元された。土台の部分にスペースが作られ、真っ白いワンピース姿のレメディオ春田夫人の手に抱えられた春田氏の遺骨がその中に分骨されて収められた。その上に復元された灯籠の部分に鉄骨と接着剤で堅固に接合され、再び取り壊されることのないようにとの市側の配慮が覗えた。司祭の祈り、下山会長の追悼の言葉、協会からの献花、ロンダ楽隊によるアンダルシア讃歌等の演奏でレメディオ夫人は涙を拭き、多くの人々に囲まれた感動的な追悼式となった。

公園中央にある円い鉄柵に囲まれた真っ白い石塔の土台にはYOKOHAMAの文字が刻まれており、周囲の桜が咲けば観光客の目を引くことになるだろう。

その後同公園内にある、近代闘牛の生みの親であり、歴史的ロンダの英雄闘牛士ペドロ・ロメロに敬意を表す献花式に参加。ゴジェスカ嬢と共に下山会長が献花した。

午後、ロンダ市主催の昼食会に招待された。場所は新ローマ橋のたもとでパラドールの向かい側のホテルのレストラン。歓迎委員会のメンバーである国民党代表ハイメ・コロネル氏所有のホテルであった。

9月4日(金)

ロンダ年金生活者の家をゴジェスカ嬢、市のフェリア委員会と共に訪問。

イベントとしてゴジェスカ嬢の紹介とバラの花が彼女たちに贈られ、下山会長も紹介された。会長自身の手からもゴジェスカ嬢にバラの花を渡す機会を与えられ、万雷の拍手をあげた。

年金生活者の家はロンダ市の熟年者のリクリエーションセンターのようなもので、文化教室もあり、ここでも日本の折り紙の作品をプレゼントし、大変喜ばれた。そしてまたの機会に折り紙教室を開いて欲しいとの要請を受けた。

午後、突然ロンダテレビへの生放送出演依頼が舞い込み、これに応じるようになった。

3時から30分間、生放送で下山会長夫妻がインタビューを受け、協会の目的、フェリアをどのように楽しんでいるか等を聞かれた。

訪問団女性がインタビューアールの前のテーブルに折り紙作品をたくさん並べると、これをアップで放映することになり、はからずも日本文化の一端を紹介することとなった。

最後は全員が出演し、ロンダでどう楽しんでいるか一人一人インタビューされた。

9月5日(土)

午後5時より第42回ゴジェスカ闘牛見学に招待された。

フェリア最大のイベントで毎年王室からの参加があり、去年は国王が見学されたが、今回は皇太后のラ・コンデッサ・デ・バルセロナがご来席された。アンダルシア州大統領、中央政府より3人の大臣、その他VIP

訪問団のことを掲載した現地の新聞



が数多く見学した。下山会長夫妻はアンダルシア州の議員席と同席で、貴賓席に近い場所が用意された。

闘牛終了後、ホテル・レイナ・ビクトリアで優秀な闘牛士への闘牛授与式に招待された。ホテルのガーデンパーティで行われた授与式で、下山会長は思いがけなくアンダルシア州議会より文化功労章を授与された。



◀ペドロ・ロメロ祭のハイライト、ゴヤ時代風の闘牛。
スペインの中から多くのVIPが招待される。

9月6日(日)

フェリア最後のイベントであるレホーネス(騎馬闘牛)に招待された。

近代闘牛(闘牛士が地上で闘う)以前の形で、闘牛士が馬に乗って闘う、馬のエレガントな動きが素晴らしく、訪問団一同、その伝統の美しさに感動した。

9月8日(火)

ロンダ市役所へ招待のお礼とお別れの挨拶に訪問。

ラサンタ文化担当助役とカスターニョ環境助役に市役所地下の喫茶室で会う。その場でカスターニョ助役は、この2月に贈った50本の桜の苗木は今苗床で育てているが、将来はロンダ郊外の新興住宅地の公園にまとめて50本植えること、贈った桜の植樹した場所とその成長経過を写真で報告することを約束し、我々に「自分たちもあなた方のような広い心を持ちたい」と語った。

一方下山会長は、いつでも桜の補充をする用意があること、2000年の当協会設立10周年にはロンダ市関係者を横浜に招待したいことを伝えた。

その場でまたまた突然、ロンダラジオの取材を下山会長は受けることになった、これによってラジオを通して、今回のロンダ訪問にさいして、ロンダ市民が示してくれたあたたかい歓迎にお礼を述べる機会が与えられたことになった。

これですべての公式行事が無事終わった。

ロンダの「ペドロ・ロメロ祭り」に参加して

下山 宏子

ロンダ市最大の伝統的な文化行事の、ペドロ・ロメロ祭りにお招き戴きました。この期間中、私達訪問団に対しまして暖かい歓迎を受け、連日美しいゴジェスカの貴婦人と共に、全公式行事の主役を務めさせて戴き、心より感謝いたしました。特にブラスインファンテ公園にて、今年4月に開花した桜の写真を送って下さった、エステポーナ在住の八倉巻さん御夫妻をはじめ、大勢のロンダ市民の皆様方の参加のもとに春田美樹画伯の追悼式が挙行政され、レメディオ夫人と共に亡き画伯を偲び感無量のひと時でした。

8月30日にロンダ市に到着し、その夜10時より闘牛場にて国際民族舞踊フェスティバルから始まり、9月6日第17回ロンダのレホーネス（騎馬闘牛）の華麗なる闘牛にて、8日間のフェリアの幕が下ろされました。

フェリアの期間中街の人口は約1.5倍になり、近くの町から集まった乗馬姿の得意げに気取ったセニョール・セニョリータ、また、フラメンコの衣裳などで、美しく着飾ったセニョリータ達は明け方まで飲み、踊り、語り、フェリアを存分に楽しんでいるそのエネルギーに驚くばかりでした。



▲中央、筆者。左、下山会長。右、ラサンタ助役

スペイン最古の伝統のある闘牛場で、2日間にわたりゴジェスカ闘牛、騎馬闘牛を見学し、馬の誇らしげのしぐさがなんとも可愛らしく、エレガントな動きに大感動いたしました。

フェリアが終りロンダの街も静けさを取りもどし、日没の午後9時前後に、パラドールの絶景から眺める刻々とうつり変わる夕焼け空の美しい風景に、しばし時を忘れました。

この機会に市民交流ということで中村さん、朝倉夫人、宮崎さん達は、連日まるで折り紙工房のような流れ作業の中でお人形などを制作し、ロンダ市民の皆様方との交流ができて大変喜ばれました。

私達訪問団は、ロンダの多くの人々と心から触れ合うことができましたことに深く感謝しております。

ロンダの祭りに参加して

朝倉雅子

古い歴史のある静かで小さな町の大きく華やかなお祭りは、世界民族舞踊の前夜祭から始まりました。

沿道は町を練り歩くパレードと街外れの特席カセータに向かう人、人、人であふれかえり、ネオンが点灯され夜店が出てあたりを明るく照らし、連日いろいろな催しもありました。そして、コンサートに招かれました。

ロンダの守護聖人ビルヘン・デ・ラ・パス教会の祭りに選ばれた貴婦人達と参拝でき、信徒以外では異例のことだそうで大感激でした。

春田美樹さんの追悼式もはなやかな楽隊の中で行われ、灯籠の中に分骨され、その周りには十本の桜が植えられ、やがてきれいな花が咲き異国の地で日本を想いおこすことでしょう。ロンダの新聞では美樹が再び帰って来たと書かれていました。

ゴジェスカ闘牛は、ロイヤル席に国王の母君が臨席され、ファンファーレに国歌が流れるきらびやかなマタドールの登場、われんばかりの歓声が上がる。スペイン最古の闘牛場は観客でいっぱいにくれ上がり、マタドールのムレタの動きにつれオーレ オーレの歓声が上がる。血潮がほとばしりまず驚く。美しく飾った剣を次々と牛の背に刺していく、牛はいきり立ち頭を下げ前足で地面をける。いよいよ最後のとどめをさす。これがなかなか難しいらしく一度にきれいにころりとはいかず、ブーイングが出たりします。全部で六

頭でした。うまくいくと観衆が白いハンカチを一斉に振り審判にアピールします。やがて牛は前足を折りころりと倒れこみ、二頭立ての馬車に軀をつながれ場内を巡り会場から消えます（アーメン）。

次の日は騎馬闘牛でした。ゴジェスカの貴婦人達が、飾り立てた四頭立ての馬車にのり優雅に入場します。

場内をパレードし、その綺麗さ、馬の足並みの見事さはまるで中世の世界に入り込んだようで、ただただ感じ入ってしまいました。

闘牛と言うより昔の貴族の狩を想い起こさせ、前日の闘牛とは打って変わり、残酷さや怖さは感じられずただただ馬の美しさ賢さに感激しました。

これを見ただけで大満足でした。



▲右、筆者。中央、中村理事。右、ラサンタ助役

協会の旗とバッジができました

かねてから協会旗を作ろうとの計画がありましたが、諸般の事情でなかなか実現しませんでした。しかし、9月初旬ロンダ市よりペドロ・ロメロ祭への正式招待を機会に、会員の児玉喬夫さんのデザインで去る8月25日完成しました。スペイン国旗をイメージし、そこにAIYESのさくらのロゴが入った、大変カラフルで美しいものです。

10月25日（日）および明年2月、3月（日程未定）の3回にわたって開催する会員相互の親睦会の席上で、この協会旗を展示しますので、ぜひご覧ください。

また同時に会員章のバッジもできました。これは上記3回行われる親睦会に、参加した会員へ配布する予定です。

このバッジも児玉会員のデザインになるものですが、女性の方にはブローチがわりのアクセサリとして、また男性にはネクタイピンとしても利用していただけるすばらしいものです。ぜひとも親睦会に参加して、このバッジを受け取ってください。



新しくできた会員バッジ。赤、黄、アイ、ピンクの4色で構成されている。

「会員親睦会」開催のお知らせ

本年度の総会で「会員親睦のための集まり」を持つことが決議されました。協会の一部の人たちだけのものではありません。会員全員のためのものです。会員であることは同時に、会のために自分のできる範囲内の何かをする、何かのイベントに参加する義務があると思います。

10月、明年2月と3月の3回に分けて親睦会を開催します。ご自身のご都合に合わせいずれかの日程に1度は必ずご参加ください。

なお、この親睦会の席上で、8月に完成した協会旗をご披露すると同時に、会員章のバッジを配布させていただきます。

第1回親睦会

日 時：1998年10月25日（日） 午後2時～3時30分

場 所：かながわ県民サポートセンター705号室（横浜三越裏）

参加費：無料

定 員：25名（先着順）

参加申し込み方法：10月10日までに、電話にてお申し込みください。

申し込み先電話： 石川美知子
寺原瑛子

第20回スペインサロンのお知らせ

11月開催のスペインサロンには、当協会顧問で、元スペイン大使をなさっておられた林屋永吉氏に決定しました。氏はかつて大使という重責かつ多忙な中で、「コロンブス航海誌」を翻訳されたりしており、通常ではなかなか聞くことのできない、お話を伺えるのではないかと、楽しみにしております。

日 時：1998年11月28日（土） 午後2時～3時30分

場 所：かながわ県民サポートセンター302号室（横浜三越裏）

参加費：会員1000円 非会員1100円（当日納め）

定 員：25名（先着順）

参加申し込み方法：11月15日までに、電話にてお申し込みください。

申し込み先電話： 石川美知子
寺原瑛子

会員投稿

サンティアゴ・デ・コンポステラを訪ねて

高柳治子

飛行機が着陸態勢に入ったことを告げる機内アナウンスの声にさそわれるように、私は小窓から外を見た。眼下に広がるのは、これまで見慣れてきた赤茶けて乾いたスペインではなく、ぬれたような緑のガリシアの地であった。突然の航空ストに巻きこまれ、果たしてサンティアゴへ飛べるのかとさんざん心配した後であっただけに、聖都へ到着できた喜びは大きかった。

大聖堂前のオプラロイド広場に立ち、壮麗にそびえる塔を見上げた時、それはまさに、多くの苦勞の末にやっとの思いでたどりついた巡礼者たちを、両の手をひろげて迎え続けてきたやさしい母の姿そのものであった。

大聖堂に入ると、栄光の門が現われた。大理石の中央の柱の上には聖ヤコブが座り、その下方には五本の指がすっぽりと入るくぼみがあった。巡礼者たちが、歓喜のうちにこの柱に指を押しあて、頭をたれて感謝の祈りを捧げた場所である。17世紀後半につくられたという正面奥の祭壇には、聖ヤコブの像が安置されているはずだったが、修復中のため見ることはできなかった。残念がっている私を見たのか、土地の人と思われるお年寄りが近づいてきて、聖ヤコブの棺があるから一緒に祈りましょうと声をかけてくれた。地下への階段を下りていくと、銀の棺が見えた。エルサレムで処刑された聖ヤコブの遺骸は、天使たちによって海路この地に運ばれたと言われている。彼女に別れを告げ、反対側の階段を上って行くと、聖ヤコブの像の後ろに出ることができた。



▲サンチャゴ大聖堂の前で筆者

外へ出ると、雨だった。すりへった石だたみの道を歩いていると、幾世紀も昔から、この同じ道をたどったであろう巡礼者たちの神への思いが、今に続くのが感じられるようであった。

翌日は、ペンテコステ（聖霊降臨祭）の大祝日。十二時の巡礼者のミサに出る。カミノ・デ・サンティアゴ（サンティアゴへの道）をたどって聖都に入った巡礼者たちが紹介された。ミサが終わると同時に、聖堂内がざわめき始めた。ロープでつり下げられた大香炉を、天井の端から端までいっぱい振るボタフメイロの儀式が行われるのであった。振られるたびに香炉の中の香が赤くゆれ、香煙、花、ろうそくの香りのなかで、人々にとってまさに至福の時であった。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ。今に至り未来に向かって多くの人々の憧れであり続ける聖なる都。再び訪れることを心に誓いながら、マドリードへと帰路の旅についた。

会員投稿

フェデリコ・ガルシア・ロルカにおける「光と影」

中村 哲

さる6月12日、ロルカ生誕100周年を記念して、スペイン大使館主催による講演会が開催されました。講師は、マドリード大学とハーバード大学にてロルカ研究により博士号を取得した、マリア・クリメンタ・ミリャンコ教授です。この講演に参加された中村会員から、講演の要旨をご報告いただきました。

地理的に離れている日本とスペインですが、今日は、ロルカについての全体像について話したいと思います。

ロルカは、「ジプシー・フォルクローレ」についてよく書いているが、デッサンをよくし、音楽においてもピアニストであった。

ロルカは光の部分と影の部分がある。彼はグラナダで生まれ、その作品にはアンダルシア風な背景と、どこに行っても水があり、窓がいつも開けられているような、明るい雰囲気を感じさせる。それはロルカの母が教師であり、音楽的な環境を作ったから、とも言えるだろう。

アンダルシアとニューヨークを書いたロルカは、また知らない事は決して書かない人でもあった。「鉛の足で大地を知る」と言われている。

1927年に「ロマンセロ・ヒターノ」を書いたが、母は心配して、マドリードの大学で法律を学ぶように言った。しかしロルカは、文学を選んだ。

丁度その頃スペインでは、近代文化の華になる人達がでてきた。オルテガはじめ多数の人達が出てきたが、これは偶然ではなく文化自由教育学院に学生館があり、サルバドル・ダリなどがそこに居た。ロルカは歴史的にも恵まれた環境に居たのである。

「ロマンセロ・ヒターノ」の成功には本人も驚き、母親への便りに「本屋に行ってもその本が売り切れて一冊もないほどだ」と書き送っている。

ダリとの学生館での交友は、美に対しての二人の相互関係であり、その妹アナ・マリアにロルカは手紙で「日々ダリの芸術に驚いている」と書き送っている。しかしダリは「ロマンセロ・ヒターノ」について「箸にも棒にもかからぬ古いもの…」と評したと言う。

その後ロルカは、ダリにそのように評された事で、内面的危機におちいり絶望し、他の土地に行く事を考える。そのような時に奨学金が出て、ニューヨークのコロンビア大学に行き、学生寮に住んだ。そこでは勉強はあまりせず、遊んでばかりいた。その後キューバのハバナにも行っている。

1929～30年頃に「ニューヨークの詩人」その他何冊か書いている。ロルカが内面の苦悩を書いた時期である。ロルカはいつも心に葛藤と苦悩を持っていた。

挿絵のデッサンにあるように、いつもマユはつながって黒く、髪がなく、半月形のホクロをいくつか持ち、手はいつも頭を抱えている。また、その足元で何か動物が彼をかじっていたりする。

そして、ロルカは段々シュール・レアリズムに入っていく。丁度、まったくの自由の中で内面に向っていく時代である。ニューヨークに夢中にな

り、ジャズや黒人に夢中になった。また、いいかげんな事を言ったりもした。彼は詩を発表する前に必ず誰かに朗読をして聞かせている。それを聞いた人に「ニューヨークの詩人」は上演なんてとんでもない…と言われて箱の中にしまい込んだ。そして彼が活着している間には発表されなかった。

最後の旅になったグラナダへの旅、多分マドリードに居ればロルカは殺されなかっただろう。しかし、ロルカはその旅の前に何かが起きるかもと言う予感を持ち、発表前の作品を友人に託し、もし自分に何かが起こったら、この作品を処分するように頼んだ。



▲ロルカのデッサン

ロルカは、なぜか生れ故郷に自分の隠れ家を求めた。彼は同性愛者であったので、いつも自分の内面に葛藤を持っていた。そしてグラナダで市民戦争に巻きこまれ、死んだ。

「全てのものを告発する。全ての人々の自由を束縛するものを告発する。」と彼は言っている。彼はイングランドの湖、全ての人を愛している。精神的自由を求めた。ベルナルド・アルバの家に居た時そう発表している。

箱に入れていた二つの作品は出版も上演もされなかったが、グラナダに行く前、ラファエル・マルチネス・マルに、自分に何かあったら処分してと頼んだ。それが処分されなかったので、私たちは今、その作品を読む事ができる。また、ロルカが南米に行った時、パブロ・ネルーダに会った。彼はホセ・ベルアミンの事務所にメモを置いていき、「明日戻るから」とあったが、彼は帰らなかった。

メキシコにおいて、ホセ・ベルアミンは出版社をつくり、ロルカの作品を発表した。

一説に、ロルカの手書きの本があるという。しかし、見た事のある人は少ない。私はコピーでは見た事がある。しかし署名はされていなかった。

その頃、ロルカは大きな転機を迎えていた。その三つの作品は前衛的に見えるが、もっとよく読むと古典的で深いものがあり、その奥にあるものを判ると、より一層面白くなると思う。また、ロルカは、ダリの妹に「あなたの兄は、私の作品を理解できなかった。」と書き送っている。

どうぞ皆さんは世界的な考えにたち、よりロルカを愛して欲しいと思う。

折角の企画なのに時間的に無理があり、質問する時間もなく、参加者は、ミリヤンコ教授にいろいろ聞いてみたい事があったと思う。

***** スペイン語講座ニュース *****

大好評！『旅行スペイン語講座』開かれる

西語講座委員 松本益代

秋の旅行シーズンにさきがけ「海外旅行スペイン語実践集中講座」が、9月9日(水)、16日(水)の2回にわたり、かながわ県民サポートセンターで開かれました。

当協会のスペイン語講座講師 栗山由美子さんと、常務理事 飯塚劭さんとの共著「海外旅行 スペイン語ハンドブック」(池田書店)を使用し、著者自らが講師となって行われました。

スペイン語が初めてと言う人もいましたが、丁寧で解りやすい説明を聞き、安心されたようでした。

覚えておく便利な表現を習いました。そしていろいろな場面を設定し、スペイン語をカタカナで発音してみると、なんと生きている言葉になりました。こちらの言いたい事が、相手に伝わりました。先生と生徒、生徒と生徒がお互いにやり取りしながら、いろいろな場面、状況を体験してみました。なんども繰り返し練習をして覚えました。

さあこんどは実際にスペインで、または、中南米の国々で使ってみましょう。きっと楽しい旅行になりますよ。

なお、大好評でしたので、同じテキストを使い、来年2月9日(火)、16日(火)、23日(火)にまた同じ講座を開く予定です。

今回、ご都合が悪くて参加できなかった方がたは、次回にどうぞ参加なさってください。



▲状況を体験しながらの「旅行スペイン語」講座風景

ー スペイン・ミニミニ情報 ー

◎バルセロナから新しいフェリー路線

(1) バルセローナ―ジェノバ（イタリア）間に9月22日からフェリーが運航されました。
所要時間は17時間。運航は火・木・日の週3便。

詳しいお問い合わせはCondeminas社へ。Condeminas社の住所と電話は下記の通り。

Pg.deColom, 11, Barcelona Tel:93-315-0011 Fax:93-319-9962

(2) 今夏より、バルセローナ―パルマ・デ・マジョルカ間に高速艇が1日2便運航されています。所要時間は3時間。バルセローナ発7:45、16:45。パルマ発12:15、21:15。

詳しいお問い合わせはTrasmediterranea社へ。Trasmediterranea社の住所、電話は下記の通り。

Estacio Maritimo num. 1, Barcelona Tel:93-443-2532 Fax:93-442-6345

◎新しいパラドールがオープン

スペイン北部アストゥリアス地方のカングス・デ・オニス（Cangas de Onis）に新しいパラドールがオープンしました。この町はピコス・デ・エウロパ山脈への玄関口でもあり、近くにはロマネスク様式の教会なども多くあります。

新しいパラドールは、12世紀から18世紀にかけて建てられたサン・ペドロ・デ・ビジャヌエバ修道院の建物を利用したもの。カングス・デ・オニスの町の中心から2キロほど離れてはいますが、緑豊かなスペイン北部の自然に囲まれ、キリスト教徒によるイスラムからの国土回復運動（レコンキスタ）当時の雰囲気にとことろひたる

ことができるでしょう。

新パラドールの住所：

Parador de Cangas de Onis (☆☆☆☆☆)

Cangas de Onis, Asturias, España Tel:985-84-9402 Fax:985-84-9520

編集後記

ペドロ・ロメロ祭からの便りが届きました。

報告の通り公式訪問団として、毎日、それこそ休む間もないほどのスケジュールとなりましたが、ロンダ市民に暖かく歓迎され、ますます交流の絆が深まりました。

さくらの樹も交流の証しとして根付いてくれることでしょう。

次回の会報発行は明年1月になりますが、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

2年後の2000年には、当協会も設立10周年を迎えます。皆様のアイディアで楽しいイベントを盛りあげたいと思います。

最後になりましたが、ロメロ祭の報告を掲載するために発行が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

* 投稿寄稿宛先 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター内
かながわ県民活動サポートセンター
レターケースNo.184 横浜スペイン交流協会会報係 FAX:045-312-1862